## 第九回委員会 会議録

日時	令和7年] 15:30~17	月24日 (金):00	場所	新潟市役所ふるまち庁舎4階403会議室
出席者	委員			予隆委員長・金出ミチル委員・松本恵樹 ・山﨑誠子委員(以上リモート参加)
	オブザーバー			お忠良専門調査員(新潟県観光文化スポ ・部文化課)
	新潟市関係課担当職員		中央	· 区地域課:引地副主査
	指定管理者		中川	副館長・久保学芸員
	事務局	新潟市 歴史文化課	萬歲主查	<ul><li>歳課長・廣野課長補佐・小林主幹・田部</li></ul>
		(株)文化財保存 計画協会	山田	日(記録)

内容: 第九回委員会 会議録(委員等からの主な指摘事項)

## 報告事項

- (1) 令和6年能登半島地震による被害への対応について(資料1)
  - ·今修繕している建物は観覧ができる状態なのか。また今はどういう 見学状況なのか。(山﨑委員)
  - →灯籠の復旧工事が完了したので、園路の立ち入り禁止は解消され、立ち入ってご 覧いただける状態である。(事務局)
  - ・壁の小さいひびはどのような修繕を行っているか。下地は寒冷紗のようなメッシュを敷き込むとか、割れのところからさらに上塗りが壊れないような方法を採用しているのか。(金出委員)
  - →上塗りをかき落とし、下地補強をした上で上塗りの仕上げという形になっている。ひびや欠けが生じた部分のみではなく、その面の全体にこのような作業を進めている。下地の補強はシーラー塗布で進めている。(事務局)
  - ・松本委員と12月27日に現地を確認した。倒伏した灯籠に関して、基礎の欠損部分や、異なる部材との接合にセメントモルタルを塗布するという、石造物修理では基本的にやってはいけない修繕が施されていた。今後慎重に対応する必要がある。確立した庭園石造物管理技術に基づいた修理をお願いしたい。
  - →今後はそのような修繕方法としたい。(事務局)

## (2) 令和6年度保存整備事業の状況について(資料2)

- ・(石積み復元に用いる)石材の寸法は。また、石材候補は白河石か。 (粟野委員長)
- → 横幅450、高さ250、奥行350 (mm) である。石材は白河石としたい。 (文化財保存計画協会)
- ・現状は布積みになっている。白河石や芦野石を横積みにしている京 王プラザホテルなどの石積みが雰囲気として似ているので、参考に してほしい。(粟野委員長)
- ・(12月27日の現地視察で)庭園全体の状況が非常によくないという 印象を受けた。名勝をよい状態で次の世代に渡すため、新潟市、中央区、指定管理者3者間のコミュニケーションを取って、基本に立ち戻ってやってほしい。

既往の塀設置工事では、周辺環境への負荷が大きいのではないか。 (工事により)延べで何百人何千人が入ることで、例えば周りの森 の印象が綺麗になりすぎるとか、踏圧によって地面が踏み固められ るなど、ダメージが大きいのではと感じた。今回の工事も、足場板 を枕板など設置した上に乗せ、そこ以外は通行禁止にするなど配慮 をし、ダメージを与えないような工事を進めること。(松本委員)

- →維持管理に関わる意識の共通化、意思統一を今後図っていきたい。 今後の工事についても、環境負荷に配慮した設計、施工にしていく。 (事務局)
- ・実際の施工時期について、だいたい令和7年度のどれぐらいから始めるのか、それまでにどういった検討をするのか。(粟野委員長)
- →具体的スケジュール調整の段階である。(例えば)石材をどうする かにしても、入手に5ヶ月ぐらい時間を要してしまう。分かり次第 また改めて委員には連絡させていただきたい。(文化財保存計画協 会)
- ・石積みは、施工者、設計監理者、特に職人の手によっては単なるのっぺりした擁壁になってしまう。今回こぶ出しでいくことになっているが、目地をしっかりと確保して、近代の人が積んだらこういうふうになるだろうというところを意識し、あまり綺麗すぎる石積みにならないように。(粟野委員長)
- ・白河石のサイズについて、構造的な問題で平たいのができないということだが、それほど土圧がかかるとも思えず、なぜできないのか。 予定のサイズだと単なる雑割石積か間知石積となり、非常に表情が 硬くなることも危惧される。できれば横長、そして目地をしっかり 取るという方法で再度検討を。(松本委員)
- →石材業者からは後ろ側からの高さがある石積みを設置するにあたっ

て後ろからの土圧とか、材料の運び出しの際に安全に運ぶことが難 しいとの話があり、比較的標準的な寸法の石積みに戻したという経 緯があった。現地の石材のサイズに近づけることができるか、再度 業者に相談してみたい。(文化財保存計画協会)

・白河石採用については了承。修理工事報告書には仕様変更の事実だけではなく、議論や現地打ち合わせなど経緯や考え方も含めて記録 化を。(金出委員)

以上